あのヒトが語る
ロードスターと
私のイイ関係

トライアルの看板娘愛ちゃん編

人生は自分で選ぶものというキャリアウーマン!?が ロードスターに乗る理由

私の人生の転換期にクルマに出会ったことで生まれ変わったんです

はっきりいって、結構イジってあります。この愛ちゃん号!! ざ〜っと見渡すだけでも、マフラー、レカロのシート、ロールバー、サイドのレーシングなカッティングシートチューンの数々、フロントスポイラー、ホイールなどなど、見た目はもちろん「足まわりもしっかりもカタめてあります」とニッコリ笑顔で答えてくれて、どこから見ても、アタシ、毎週金曜日は峠とかサーキット走ってます風のロードスターなのである。だから彼女への最初の質問は「どのへんに走りに行くのかな?」だった。

が、しかし。しかしである。帰ってきた答えには、峠を攻めに行っています、とか、ショップに勤務しているからです、とか、はたまた、走り屋の彼氏がいて「コレ、いいよ」などと、自分色に染めようと目論み、よくわからないままにイジられたわけでもなかった。

「私、走り屋、ちゃうんです」

どうしてロードスターをこんなふうにルックスも足まわりもモデファイしたの?

「通勤に片道25キロかかるんです。途中、高速道路も使うし。せやから、足まわりはかためなあかんなって。だからコーナーを攻めるとか、そんなんじゃなくて、単に必要だったからなんです。だから毎日、通勤、ショッピング、レジャーと幅広く使ってます。家が駅服とかメイクとかにその人のセンスって出るでしょう? ボディをブルーにしたからスポイラーやホイールは白がエエなあ、思ってクルマを使って自分なりのお洒落をしたんです」

そうなのだ。世の中、日進月歩、生々流転と変わっていくのだ。今や女の子といえど、走り屋を思わせるようなルックスをお洒落と感じて、普通の顔してイジってしまうほど世の中は変わってきたのだ。

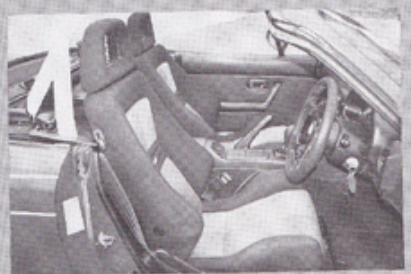
愛ちゃんが始めて免許を手にしたのが18才。その時、両親にオートマのラングレーを買ってもらった。当時、ぼんやりと保母さんになれればいいかな、くらいにしか将来を考えていなかった彼女はそれに満足していた。しかしその後、お友達の紹介で始めたトライアルでのアルバイトが、彼女のクルマ人生、いや、人生観を180度変えてしまったのだ。

「店長の勧めでトライした、鈴鹿のレースクイーンに選ばれたり、お店に来るお客さんやレース業界を見てたら、周りに流されるタイプだった自分の人生を、もっと積極的にやってエエんやなって思えて、自己革命が起こったんです。会社の役職につけたり、仕事にも意欲が湧いたし。その時なんですよね、ロードスターがどうしても乗りたくなったのは」

何となくの人生から、自分の意思で自己表現するようになった瞬間、彼女がロードスターを選んだのは偶然の一致ではないだろう。そういう前向きな彼女だからこそ、ロードスターに乗りたくなったのだ。もし、あのままなんとなく保母さんになっていたら、きっと

愛ちゃんのおクルマチェック

ル ホイール Z1R/やっぱ、ロードスターには、セックがよく似合います。ブルーのボディにホワイトのスチューンと、爽やかにカラーコーディネートしている。



レカロLXイーグル/サイズも小さく、シート幅の狭いクルマ用電動シート。96年の限定ヴァージョンです。スポーツ走行というより、ツーリング用で、片道25キロの通勤もラクチンラクチン。

ル フロントスポイラー タイプU/ノーマルバンパーけるタイプなので、つけやすく、女の子が始める最初のップキットとして最適なの、と愛ちゃんイチオシパーツ。

マツダスピード ロールバー/いつか挑戦したいジムカーナやサーキット走行に備えて競技用をつけました、とのこと。ドレスアップとして見ても硬派な女の子のイメージ作りに一役かっている。

森田愛子:トライアル勤務。1967年生まれで今年29歳。A型。大阪生まれ大阪育ち。チューニング業界ではトライアルのマスコット娘として有名。趣味はジェットスキーとピアノを弾くこと。1年のうち363日? はロードスターに乗っており、今ではほとんど体の1部と化している。87年度の鈴鹿レースクイーン。愛ちゃんから一言:「一生、ロードスターは手離しません」